DEOS-FY2013-DI-01J

© 2013 科学技術振興機構

D-RE デモ環境導入ガイド

Version 1.0

2013/09/01

DEOS 研究開発センター



DEOS プロジェクト

JST-CREST

研究領域

「実用化を目指した組込みシステム用ディペンダブル・オペレーティングシステム」



目次

1	はし	こめに	.3
2	準備	生	.4
	2.1	dre ユーザの追加	.4
	2.2	D-RE の導入	.4
	2.3	システムコンテナの作成	.5
	2.4	システムコンテナの起動	.6
	2.5	起動確認	.6
	2.6	/etc/hosts の設定	.7
	2.7	SSH の設定	.7
3	デモ	- 環境のインストール	.9
	3.1	ダウンロード	.9
	3.2	dre-demo-web ヘデモ環境をインストールする	10
	3.3	dre-demo-app ヘデモ環境をインストールする	10
	3.4	dre-demo-db ヘデモ環境をインストールする1	11
	3.5	dre-demo-console ヘデモ環境をインストールする	12
	3.6	dre-demo-ctrl ヘデモ環境をインストールする	14
	3.7	動作確認	15
	3.8	dre-demo-console に D-Case Weaver を導入する	16
	3.9	Web/Application/Database サーバに時計を表示させる	18
	3.10	システムコンテナの停止	24
	3.11	dre-demo-app のスナップショットを保存するź	24
4	ディ	=を実行する	25
	4.1	デモ動画2	25
	4.2	準備	25
	4.3	シナリオ1の実行手順	26
	4.4	シナリオ2の実行手順	26
	4.5	シナリオ3の実行手順	26
	4.6	シナリオ4の実行手順	27

本書に記載されているシステム名、製品名、サービス名などは一般に各社の商標または登録商標 です。

文中の赤字部分は設定する際に注意して頂きたい箇所となります。

1 はじめに

本書では D-RE デモ環境のインストール方法について説明します。 以下の構成を例にインストール手順の説明を進めます。



名前	IP	説明
host1	192.168.1.200	このマシン上でショッピングサイトの
		Web/Application/Database サーバが稼働しま
		す
host2	192.168.1.201	このマシン上で D-RE コンソール、デモコント
		ローラが稼働します
dre-demo-web	192.168.1.210	ショッピングサイト Web サーバ
dre-demo-app	192.168.1.211	ショッピングサイト Application サーバ
dre-demo-db	192.168.1.212	ショッピングサイト Database サーバ
dre-demo-console	192.168.1.220	D-RE コンソール
		D-RE、D-Case Weaver を提供します
dre-demo-ctrl	192.168.1.221	デモコントローラ
		デモを操作する GUI を提供します

IP アドレスは任意の IP アドレスを指定してください。

host1 及び host2 のホスト名は任意の名前を設定できます。その他の名前は上記の名前を使用し てください。

host1 及び host2 は Ubuntu 12.04 LTS がインストールされている必要があります。

host1 及び host2 の動作環境の詳細については「D-RE 仕様書」の「A1-1 動作環境」をご確認 ください。

D-RE 仕様書は以下よりダウンロードできます。

http://www.dependable-os.net/tech/D-RE/

2 準備

2.1 dre ユーザの追加

host1 及び host2 に dre ユーザを追加します。

host1 上で以下のコマンドを実行してください。 ここではパスワードは"dre"とします。必要に応じて任意のパスワードを設定してください。

host1\$ sudo useradd -m -s /bin/bash dre host1\$ sudo passwd dre Enter new UNIX password: dre[ENTER] Retype new UNIX password: dre[ENTER]

host1と同様に host2上で dre ユーザを作成してください。

2.2 D-RE の導入

host1 及び host2 に D-RE をインストールします。

"D-RE 仕様書"の"A1. D-RE 導入ガイド"を参考に D-RE の"必要最低限のパッケージ群" のインストール及び初期設定を行ってください。 D-RE 仕様書は以下よりダウンロードできます。

http://www.dependable-os.net/tech/D-RE/

/etc/network/interfacesの設定については、本デモ環境では固定IPアドレスを使用しますので、 以下の例を参考に設定してください。 DEOS プロジェクト

host1 の設定例)

auto lo iface lo inet loopback

auto br0

iface br0 inet static address 192.168.1.200 network 192.168.1.0 netmask 255.255.255.0 broadcast 192.168.1.255 gateway 192.168.1.1 dns-nameservers 192.168.1.1 bridge_ports eth0 bridge_stp off bridge_maxwait 1

auto eth0 iface eth0 inet manual up ifconfig eth0 0.0.0.0 up

2.3 システムコンテナの作成

host1に以下のシステムコンテナを作成します。

- dre-demo-web
- dre-demo-app
- dre-demo-db

host1上で以下のコマンドを実行してください。

host1\$ sudo dre-sys create -n dre-demo-web -ip 192.168.1.210 Created system container 'dre-demo-web'. host1\$ sudo dre-sys create -n dre-demo-app -ip 192.168.1.211 -m 1024 Created system container 'dre-demo-app'. host1\$ sudo dre-sys create -n dre-demo-db -ip 192.168.1.212 Created system container 'dre-demo-db'.

-m オプション:

メモリ容量を指定します。ここでは dre-demo-app のメモリ容量を 1024MB に設定しています。

host2に以下2つのシステムコンテナを作成します。

- dre-demo-console
- dre-demo-ctrl

host2上で以下のコマンドを実行してください。

host2\$ sudo dre-sys create -n dre-demo-console -ip 192.168.1.220 Created system container 'dre-demo-console'. host2\$ sudo dre-sys create -n dre-demo-ctrl -ip 192.168.1.221 Created system container 'dre-demo-ctrl'.

2.4システムコンテナの起動

以下のコマンドを実行し、host1上のシステムコンテナを起動してください。

host1\$ sudo dre-sys start -n dre-demo-web -vnc :1 System container 'dre-demo-web' started. host1\$ sudo dre-sys start -n dre-demo-app -vnc :2 System container 'dre-demo-app started. host1\$ sudo dre-sys start -n dre-demo-db -vnc :3 System container 'dre-demo-db' started.

以下のコマンドを実行し、host2上のシステムコンテナを起動してください。

host2\$ sudo dre-sys start -n dre-demo-console -vnc :4 System container 'dre-demo-console' started. host2\$ sudo dre-sys start -n dre-demo-ctrl -vnc :5 System container 'dre-demo-ctrl' started.

-vnc オプション:

-vnc:n オプションを指定してシステムコンテナを起動するとホストマシンの 590n ポートと VNC 接続ができます。

上記の場合は、dre-demo-web は host1 の 5901 ポートが VNC 接続でき、dre-demo-console は host2 の 5904 が VNC 接続できるようになります。

2.5 起動確認

ssh 接続し、起動できていることを確認します。

ここでは dre-demo-web が起動できているか確認します。

host1\$ ssh dre@192.168.1.210 (略) Are you sure you want to continue connecting (yes/no)? yes[ENTER] (略) dre@192.168.1.210's password: dre[ENTER] (略) dre-demo-web\$

各システムコンテナの初期パスワードは "dre"です。本書ではパスワードは"dre"のままとしま す。パスワードは必要に応じて変更してください。

dre-demo-app, dre-demo-db, dre-demo-console 及び dre-demo-ctrl の各システムコンテナについても同様に確認してください。

2.6/etc/hosts の設定

全ての物理マシン、システムコンテナの/etc/hosts ファイルに以下の内容を追記してください。

192.168.1.200 host1 192.168.1.201 host2 192.168.1.210 dre-demo-web 192.168.1.211 dre-demo-app 192.168.1.212 dre-demo-db 192.168.1.220 dre-demo-console 192.168.1.221 dre-demo-ctrl

2.7 SSH の設定

dre-demo-console の公開鍵を host1, host2, dre-demo-web、dre-demo-apa 及び dre-demo-db に登録し、dre-demo-ctrl の公開鍵を host1, host2, dre-demo-web、dre-demo-apa、 dre-demo-db 及び dre-demo-console に登録します。

dre-demo-console の SSH 公開鍵の作成

dre-demo-console ヘログインし、公開鍵を作成します。

host1\$ ssh dre@dre-demo-console

(略)
Are you sure you want to continue connecting (yes/no)? yes[ENTER]
(略)
dre@dre-demo-console's password: dre[ENTER]
(略)
dre-demo-console\$ ssh-keygen
Enter file in which to save the key (/home/dre/.ssh/id_rsa): [ENTER]
Enter passphrase (empty for no passphrase): [ENTER]
Enter same passphrase again: [ENTER]

dre-demo-console の SSH 公開鍵の登録

ここでは dre-demo-web に SSH 公開鍵を登録する手順を説明します。

公開鍵を dre-demo-web に転送します。

dre-demo-console\$ scp ~/.ssh/id_rsa.pub dre@dre-demo-web:~/ (略)

dre ユーザで dre-demo-web にログインします。

ssh dre@dre-demo-web (略) dre-demo-web\$

.ssh ディレクトリがない場合は以下の手順で.ssh ディレクトリを作成してください。

dre-demo-web\$ mkdir .ssh dre-demo-web\$ chmod 700 .ssh

SSH 公開鍵を登録します。

dre-demo-web\$ cat id_rsa.pub >> .ssh/authorized_keys dre-demo-web\$ rm id_rsa.pub

.ssh/authorized_keys のパーミッションを確認します。

dre-demo-web\$ ls -l .ssh/authorized_keys

-rw------2 dre dre 4092 9 月 1 12:00 .ssh/authorized_keys

パーミッションが上記と異なる場合、パーミッションを 600 に変更します。

dre-demo-web\$ chmod 600 .ssh/authorized_keys

一旦ログアウトし、パスワードなしでログインできることを確認します。

dre-demo-web\$ logout host1\$ ssh dre@dre-demo-web (略) dre-demo-web\$

上記手順を host1, host2, dre-demo-app 及び dre-demo-db に対しても行います。

dre-demo-console から host1, host2, dre-demo-web, dre-demo-app, dre-demo-db へパスワード なしでログインできることを必ず確認してください。

dre-demo-ctrl の SSH 公開鍵の作成

上記 "dre-demo-console の SSH 公開鍵の作成"と同様に dre-demo-ctrl の公開鍵を作成してください。

dre-demo-ctrl の SSH 公開鍵の登録

上記 "dre-demo-console の SSH 公開鍵の登録"と同様に、host1, host2, dre-demo-web, dre-demo-app, dre-demo-db 及び dre-demo-console に対して公開鍵の登録をしてください。

dre-demo-ctrl から host1, host2, dre-demo-web, dre-demo-app, dre-demo-db, dre-demo-console へパスワードなしでログインできることを必ず確認してください。

3 デモ環境のインストール

3.1ダウンロード

以下より、D-RE デモ環境インストーラをダウンロードしてください。

http://www.dependable-os.net/tech/D-RE/

ダウンロードした dre-demo-1.0.tar.gz(ファイル名はバージョンによって異なることがありま

す)を展開します。ここではhost1のホームディレクトリ上に展開します。

host1\$ tar xzvf dre-demo-1.0.tar.gz dre-demo-1.0/ dre-demo-1.0/dre-demo-web.bin dre-demo-1.0/dre-demo-db.bin dre-demo-1.0/dre-demo-ja.dcase dre-demo-1.0/LICENSE dre-demo-1.0/dre-demo-app.bin dre-demo-1.0/dre-demo-app.bin dre-demo-1.0/dre-demo-console.bin dre-demo-1.0/dre-demo-console.bin dre-demo-1.0/dre-demo-ctrl.bin

3.2 dre-demo-web ヘデモ環境をインストールする

host1 からインストーラを dre-demo-web へ転送し、dre-demo-web 上でインストーラを実行します。

host1\$ scp ~/dre-demo-1.0/dre-demo-web.bin dre@dre-demo-web:~/ (略) host1\$ ssh dre@dre-demo-web (略) dre-demo-web\$ sudo ./dre-demo-web.bin (略) Installation Successful !!

3.3 dre-demo-app ヘデモ環境をインストールする

host1 からインストーラを dre-demo-app へ転送し、dre-demo-app 上でインストーラを実行します。

```
host1$ scp ~/dre-demo-1.0/dre-demo-app.bin dre@dre-demo-app:~/
(略)
host1$ ssh dre@dre-demo-app
(略)
```

dre-demo-app\$ sudo ./dre-demo-app.bin (略) Installation Successful !!

3.4 dre-demo-db ヘデモ環境をインストールする

host1 からインストーラを dre-demo-db へ転送し、dre-demo-db 上でインストーラを実行します。

host1\$ scp ~/dre-demo-1.0/dre-demo-db.bin dre@dre-demo-db:~/ (略) host1\$ ssh dre@dre-demo-db (略) dre-demo-db\$ sudo ./dre-demo-db.bin (略)

MySQL の root ユーザのパスワードの設定を求められますので任意のパスワードを設定してください。

ここでは"root"とします。

^{ペッ} ケージの設定
強制ではありませんが、MySQL を管理する "root" ユーザのパスワードを設定す ることを強くお勧めします。
この値を空のままにしておいた場合は、パスワードは変更されません。
MySQL の "root" ユーザに対する新しいパスワード:

<0k>

ペッケージの設	定	
	──── mysql-server-5.5 を設定しています ┝────┐	
	 MySQL の "root" ユーザに対する新しいパスワード:	

	<0k>	
	LI	

MySQL のユーザとパスワードの入力を求められます。root ユーザと上記で設定したパスワード を設定します。

(略) Enter MySQL User: root[Enter] Enter MySQL Password: root[Enter] (略) Installation Successful!!

3.5 dre-demo-console ヘデモ環境をインストールする

host1 からインストーラを dre-demo-console へ転送し、dre-demo-console 上でインストーラを 実行します。

host1\$ scp ~/dre-demo-1.0/dre-demo-console.bin dre@dre-demo-console:~/ (略) host1\$ ssh dre@dre-demo-console (略) dre-demo-console\$ sudo ./dre-demo-console.bin (略)

dre-demo-web、dre-demo-app 及び dre-demo-db の各システムコンテナが起動しているホスト 及び、それぞれの VNC ディスプレイ番号の入力を求められます。 ここでは各ホストは host1 となります。VNC ディスプレイ番号は各システムコンテナ起動した 際に-vnc オプションで指定した番号を設定します。

(略)

Enter IP address or host name of host running dre-demo-web container: host1[Enter] Enter VNC display number of dre-demo-web container [1]: [Enter] Enter IP address or host name of host running dre-demo-app container [host1] [Enter] Enter VNC display number of dre-demo-app container [2]: [Enter] Enter IP address or host name of host running dre-demo-db container [host1]: [Enter] Enter VNC display number of dre-demo-db container [3]: [Enter] (略)

Installation Successful !!

この設定は/etc/dre-demo.confに反映されます。

MySQL の root ユーザのパスワードの設定を求められますので任意のパスワードを設定してく ださい。

ここでは"root"とします。



パッケージの設	定	
	┍━━━━┥ mysql-server-5.5 を設定しています ┝━━━━┓	
	MySQL の "root" ユーザに対する新しいパスワード:	

	<0k>	
	LJ	

rsyslog-mysql の設定の確認画面が表示されます。 <No>を選択してください。

ペッケージの設定
┌───── rsyslog-mysql を設定しています ┝─────
rsyslog-mysql は利用できるようになる前にはデータベースをインストールして 設定する必要があります。この設定を dbconfig-common で管理するようにもで きます。
あなたが熟練したデータベース管理者でこの設定について手動で何をするのかを 知っている場合、あるいはデータベースが既にインストール及び設定されている 場合は、この選択を選ばない方が良いでしょう。何をすればいいのかについての 詳細については、大抵 /usr/share/doc/rsyslog-mysql に置かれています。
そうでない場合は、恐らくこの設定を選ぶのが良いでしょう。
rsyslog-mysql のデータベースを dbconfig-common で設定しますか?
<yes> <no></no></yes>

MySQL のユーザとパスワードの入力を求められます。root ユーザと上記で設定したパスワード を設定します。

(略) Enter MySQL User: root[Enter] Enter MySQL Password: root[Enter] (略) Installation Successful!!

3.6 dre-demo-ctrl ヘデモ環境をインストールする

host1 からインストーラを dre-demo-ctrl へ転送し、dre-demo-ctrl 上でインストーラを実行します。

host1\$ scp ~/dre-demo-1.0/dre-demo-ctrl.bin dre@dre-demo-ctrl:~/ (略) host1\$ ssh dre@dre-demo-ctrl (略) dre-demo-ctrl\$ sudo ./dre-demo-ctrl.bin (略)

dre-demo-web、dre-demo-app 及び dre-demo-db の各システムコンテナが起動しているホスト

及び、それぞれの VNC ディスプレイ番号の入力を求められます。 ここでは各ホストは host1 となります。VNC ディスプレイ番号は各システムコンテナ起動した 際に-vnc オプションで指定した番号を設定します。

(略)

Enter IP address or host name of host running dre-demo-web container: host1[Enter] Enter VNC display number of dre-demo-web container [1]: [Enter] Enter IP address or host name of host running dre-demo-app container [host1] [Enter] Enter VNC display number of dre-demo-app container [2]: [Enter] Enter IP address or host name of host running dre-demo-db container [host1]: [Enter] Enter VNC display number of dre-demo-db container [3]: [Enter] Install Successful !

この設定は/etc/dre-demo-ctrl.confに反映されます。

3.7 動作確認

ショッピングサイトの確認

下記 URL にアクセスし、ショッピングサイトが表示されることを確認してください。

http://dre-demo-web/DShopping/

ホスト名(dre-demo-web)でアクセスできない場合は直接 IP アドレスを指定してください。

モニターの確認

下記 URL にアクセスし、モニターが表示されることを確認してください。

http://dre-demo-console/dre-monitor/

ホスト名(dre-demo-console)でアクセスできない場合は直接 IP アドレスを指定してください。

デモコントローラの確認

下記 URL にアクセスし、デモコントローラが表示されることを確認してください。

http://dre-demo-ctrl/dre-demo-ctrl/

ホスト名(dre-demo-ctrl)でアクセスできない場合は直接 IP アドレスを指定してください。

3.8 dre-demo-console に D-Case Weaver を導入する

インストール

"D-Case Weaver 仕様書"の "D-Case Weaver 導入ガイド"に従って、D-Case Weaver を dre-demo-console へ導入してください。
D-Case Weaver 仕様書は以下よりダウンロードできます。

http://www.dependable-os.net/tech/DCaseWeaver/

D-Case ファイルのアップロード

host1 の~/dre-demo-1.0/にある dre-demo-ja.dcase を D-Case Weaver ヘアップロードします。

ブラウザに以下の URL を入力し、D-Case Weaver を起動します。

http://dre-demo-console/dcase-weaver/

D-Case Weaver 上部のメニューの "File > Browse"をクリックします。



"Browser" ダイアログが表示されます。



"Upload"ボタンをクリックすると、"Upload"ダイアログが表示されます。

"ファイルを選択"ボタンをクリックすると、"ファイルを開く"ダイアログが表示されますので、dre-demo-ja.dcaseを選択します。

(Chrome の場合は"ファイルを選択"ボタンですが、Firefox の場合、"参照…"ボタンになります)

× Upload								
Upload File: ファイルを選択 dre-demo-ja.dcase File Name:								
dre-demo-ja.dcase								
OK Cancel								

"OK" をクリックし、dre-demo-ja.dcase をアップロードします。

/etc/dre-demo.confの設定

dre-demo-console の/etc/dre-demo.conf の "DCASE_PATH" に D-Case ファイルのパスを設定 します。

DCASE_PATH=/dre-demo-ja.dcase

3.9 Web/Application/Database サーバに時計を表示させる

Web(dre-demo-web)/Application(dre-demo-app)/Database(dre-demo-db)サーバにデスクトッ プ環境をインストールし、図のようにデモコントローラ上で各サーバの日時がわかるように設定 します。

この手順は必須ではありません。



以下の手順は Web(dre-demo-web)/Application(dre-demo-app)/Database(dre-demo-db)の全て のサーバで行ってください。

ここでは Web(dre-demo-web)サーバに対する設定方法を示します。

デスクトップ環境のインストール

dre-demo-web にログインし、デスクトップ環境をインストールします。(環境により異なりま すがインストールに1時間以上かかります)

host1\$ ssh dre@dre-demo-web dre-demo-web\$ sudo apt-get install ubuntu-desktop

dre-demo-web を再起動し、デスクトップ環境がインストールされていることを確認します。 VNC 接続する場合は、host1 の 5901 ポートに接続して確認してください。dre-demo-app の場 合は 5902 ポート、dre-demo-db の場合は 5903 ポートに接続してください。 -vnc オプションなしでシステムコンテナを起動し QEMU モニターにて確認することもできま す。

host1\$ sudo dre-sys start -n dre-demo-web

sys-a	pa													0	en 📖	((ا	10:08	ወ
٢																		
۲																		
00																		
•																		
		dro					6											
		ure					U											
		Pas	sswo	brd						3								
۲																		
0		Gue	st S	essio	n.													
0	•	bur	tu	9 1 2 .	בו אח													
۲	, U	bui	n u	12.	04 LI	Э												

ロケーションを設定する

日時表示のロケーションを設定します。

System Settings (システム設定)を開き、Time & Date (時刻と日付)を選択します。

地図上のお住まいの地域をクリックします。



自動ログインを有効にする

dre-demo-web 起動時に自動的にログインするように設定します。

System Settings(システム設定)を開き、User Accounts(ユーザーアカウント)を選択しま す。 右上の Unlock(ロック解除)をクリックします。パスワードを求められますのでパスワードを

入力してください。

Automatic Login(自動ログイン)を ON に設定します。

😣 🖨 User Accounts					
All Settings User Accounts				🔒 Lock	
My Account My Account Other Accounts	C	Account type Language Login Options Password Automatic Login	dre Administrator 英語		
dre Administrator Other Accounts	C	Account type Language Login Options Password Automatic Login	Administrator 英語 M		

自動的に画面を OFF する機能を無効にする

自動的に画面が OFF されないように設定します。

System Settings (システム設定)を開き、Brightness and Lock (画面の明るさとロック)を 選択します。

Turn screen off when inactive for (次の時間アイドル状態が続けば画面をオフにする)を Never (しない) に設定します。

😣 🖨 Brightness and Lock	
All Settings Brightness and Lock	
Turn screen off when inactive for:	Never v
Lock screen after:	Screen turns off 💌
🗹 Require my password when w	aking from suspend

時計を自動起動させる

ログイン時に時計が自動起動するように設定します。

デスクトップ右上の歯車アイコンをクリックし、"Startup Applications..."を選択します。



Startup Applications Preferences ダイアログが表示されます。

Startup Applications Preferences	
Additional startup programs:	
	Add
	Remove
	Edit
	Close

Add ボタンをクリックすると、Add Startup Program ダイアログが表示されます。 Name に"D-RE Demo Clock"と入力し、"Browse…"ボタンから以下のアプリケーションを 選択します。

/usr/share/dre-demo/bin/clock.py	

😣 Add Startup Program							
Name:	D-RE Demo Clock						
Command:	Jre-demo/bin/clock.py Browse						
Comment:							
	Cancel Add						

"Add"ボタンをクリックすると時計アプリを自動起動するアプリケーションに追加されます。

Startup Applications Preferences	
Additional startup programs:	
D-RE Demo Clock No description	Add Remove Edit
	Close

"Close"ボタンをクリックし、設定を終了します。

動作確認

システムコンテナを再起動し、以下のように自動的にログインし、時計が自動起動されることを 確認してください。



3.10 システムコンテナの停止

以下のコマンドを実行し、host1上のシステムコンテナを停止してください。

host1\$ sudo dre-sys stop -n dre-demo-web System container 'dre-demo-web' stopped. host1\$ sudo dre-sys stop -n dre-demo-app System container 'dre-demo-app stopped. host1\$ sudo dre-sys stop -n dre-demo-db System container 'dre-demo-db' stopped.

以下のコマンドを実行し、host2上のシステムコンテナを停止してください。

host2\$ sudo dre-sys stop -n dre-demo-console System container 'dre-demo-console' stopped. host2\$ sudo dre-sys stop -n dre-demo-ctrl System container 'dre-demo-ctrl' stopped.

3.11 dre-demo-app のスナップショットを保存する

デモで使用するための dre-demo-app のスナップショットを保存します。

host1上で以下の手順を実行してください。

dre-demo-app が停止していない場合は dre-demo-app を停止します。

host1\$ sudo dre-sys stop -n dre-demo-app System container 'dre-demo-app' stopped.

スナップショットを保存します。

host1\$ sudo dre-sys save -n dre-demo-app -t ss1 Saved snapshot 'ss1'.

スナップショットが保存されていることを確認します。

host1\$ sudo dre-sys list -n dre-demo-app

ID	TAG	VM SIZE	DAT	VM CLOCK
1	ss1	0	2013-08-15 13:21:15	00:00:00.000

4 デモを実行する

4.1デモ動画

以下よりデモ動画をご覧頂けます。

http://www.dependable-os.net/tech/D-RE/

4.2 準備

"2.4 システムコンテナの起動"の手順に従い、システムコンテナを起動してください。

ショッピングサイト、モニター、デモコントローラ及び D-Case Weaver をブラウザで開いてください。

対応ブラウザは Chrome 及び Firefox です。

ショッピングサイト http://dre-demo-web/DShopping/

モニター

http://dre-demo-console/dre-monitor/

デモコントローラ http://dre-demo-ctrl/dre-demo-ctrl/

D-Case Weaver

http://dre-demo-console/dcase-weaver/

D-Case Weaver の準備

- 1 "D-Case Weaver 仕様書"の"2.2 D-Case の読み込み"を参照し、"3.8 dre-demo-console に D-Case Weaver を導入する"でアップロードした"dre-demo-ja.dcase"を開きます。
- 2 "D-Case Weaver 仕様書"の"9.1 設定"の手順に従って、URL に "cgi-bin/node-status.wsgi/dre-demo-ja.dcase"を設定します。
- 3 "9.2 モニタリングの開始"の手順で、モニタリングを開始します。
- 4 M_11、M_13、M_15、M_16の各 Monitor ノードが黄色になっていることを確認します。

2013/09/01

4.3シナリオ1の実行手順

- 1 デモコントローラの "シナリオ1" ボタンをクリックします。
- 2 ショッピングサイトの状態を確認します。
- 3 "新規サービスをインストール"ボタンをクリックします。ショッピングサイトに新規サー ビスが追加されます。
- 4 ショッピングサイトの状態を確認し、2の状態から更新されていることを確認します。
- 5 "次へ"ボタンをクリックします。ショッピングサイトへのアクセス数が増加します。
- 6 モニターの Web サーバの Accesses が増加していることを確認します。
- 7 モニターがアクセス数の閾値を超えたことを検出します。
- 8 D-Case Weaver の M_11 ノードが赤色になっていることを確認します。
- 9 "次へ"ボタンをクリックします。ショッピングサイトを前の状態に戻ります。
- 10 D-Case Weaver の G_69 ノードが黄色になっていることを確認します。
- 11 ショッピングサイトが2の状態に戻っていることを確認します。
- 12 "終了"ボタンをクリックし、シナリオ1を終了します。

4.4シナリオ2の実行手順

- 1 デモコントローラの"シナリオ2"ボタンをクリックします。
- 2 "次へ"ボタンをクリックします。
- 3 モニターの Database サーバのデータベースの応答時間が遅延していることを確認します。
- 4 モニターがデータベースの応答時間の遅延を検出します。
- 5 D-Case Weaver の M_13 ノードが赤色になっていることを確認します。
- 6 要因解析が開始され、不適切なバッチジョブが検出されます。
- 7 "次へ"ボタンをクリックします。
- 8 不適切なバッチジョブが停止します。
- 9 D-Case Weaver の G_74 ノードが黄色になっていることを確認します。
- 10 "終了"ボタンをクリックし、シナリオ2を終了します。

4.5シナリオ3の実行手順

- 1 デモコントローラの "シナリオ3" ボタンをクリックします。
- 2 "新規サービスをインストール"ボタンをクリックします。
- 3 モニターの Application サーバのメモリ使用量が増加していることを確認します。
- 4 モニターが Application サーバのメモリ使用量の増加を検出します。
- 5 D-Case Weaver の M_15 ノードが赤色になっていることを確認します。
- 6 "次へ"ボタンをクリックします。
- 7 Application サーバが再起動します。
- 8 D-Case Weaver の G_83 ノードが黄色になっていることを確認します。
- 9 "診断プローブをインストール"ボタンをクリックします。

- 10 メモリリーク診断プローブを導入され、要因解析が開始されます。
- 11 モニターがメモリリークの疑いのあるサービスを検出します。
- 12 D-Case WeaverのM_16ノードが赤色になっていることを確認します。
- "修正をプログラムに適用"ボタンをクリックします。 13
- 14 "終了"ボタンをクリックし、シナリオ3を終了します。

4.6シナリオ4の実行手順

- デモコントローラの"シナリオ4"ボタンをクリックします。 1
- $\mathbf{2}$ "就業時点検開始"ボタンをクリックします。
- 3 "時刻を翌日に進める"ボタンをクリックします。
- Web/Application/Database サーバの時刻が翌日の時刻に進みます。 4
- デモコントローラの右側の各サーバの日時が翌日になっていることを確認します。 $\mathbf{5}$
- 6 期限切れライセンスが検出されます。
- "時刻を元に戻す"ボタンをクリックします。 7
- 時刻が現在時刻に戻ります。 8
- "ライセンスを更新ボタン"をクリックします。 9
- 10 ライセンスが更新されます。
- "終了"ボタンをクリックし、シナリオ4を終了します。 11



DEOS プロジェクト